

宗像市議会 建設産業常任委員会 委員長

〒811-4175 宗像市田久6丁目1番 Tel / Fax 0940-32-1386 メール abeyoshihide@gmail.com ホームページ http://abe-yoshihide.jp/



信やご案内などを配信していきますの で、QRコードよりお友達登録をお願い 致します。

議員活動報告書 2019年4月号

地域経済を循環させるために



宗像市に足りない部分があるとすれば域内循環、域内消費の分析と考える。他の自治体 においては域内循環の試算を独自で行なっている。そういった調査分析をせずに根拠の 曖昧なまま経済政策、補助金を今後も行っていくのか。

ご指摘の通り域内循環という視点での十分な分析はできていない。市内の関係団体や金融機 関が持っている調査分析ノウハウ、蓄積データを活用して分析について他市の事例も参考に しながら研究を進めてまいりたい。





公共工事、物品調達について域内循環の視点から宗像市内で取り扱っている物、地域で 調達できる物品を確保するように制度の整理整頓をしてほしい。

地元の精査品を使うことは最優先に考えているが、今後も最大限配慮をして取り組んでまいりたい。





これから年金受給年齢が上がっていくことが予測されているので、市民に対して少しずつ ビジネスの啓発を行っていかなければならない、市民学習機会の中に「稼ぐ意識」を持つ ようなメニューを作ることはできないか。

生涯学習支援については市民学習ネットワークを行っている。今後ニーズも含めて一緒に考え ていきたい。





市内全域で福祉施設、生産者、飲食店の食に関する部分でビジネスマッチング機会、つな げる機会をつくることができないか。

市内福祉施設の食材について可能な限り地場産食材の利用についてお願いをしていきたい。 マッチング機会について極力増やして消費の視野を広げていく、常にそういったことを考えな がら仕事を進めていきたい。





域内循環に関して過去に提案していた地域通貨やまちづくりポイント制度について進捗は。

平成30年5月 マイキープラットフォームの 結果 実証実験を開始

自治体ポイントに交換して 特産品の通信販売を行う





また、今後キャッシュレスの推進を行っていく中で消費喚起、消費者の取り込みを強化していきたい。



市職員の飲食について、市外でされているとよく耳にする。是非宗像市内で懇談会、歓送 迎会をしてほしいが。

市職員が地域にお金を落としていくことは当然の使命であると考えている。



子どもたちの安全安心のために



市ではPTAをどのように位置づけ捉えているか。仮にPTAが解 散や休止となった場合、子どもたちにどのような影響があると考 えるか。





PTAは親と教師とが協力して児童・生徒の健全成長を目的に活 動を行っている任意の社会教育団体であり、なくてはならない 団体。仮に解散したり、休止した場合、学校、家庭、地域をつなぐ 役割を担うところが無くなり、学校教育活動に大きな影響が生 じてしまうことになる。





宗像市通学路安全推進会議及びプログラムについて

- ①現役の会長の大半がその存在を認知していないのに、プログラムではPTAが安全点検 を行うことになっている。
- ②構成メンバーの一人である学校の先生はその地域に住んでいないので通学路の日常、 危険箇所に関する判断は難しいと有識者が指摘している。
- ③推進会議での協議結果、対応内容についてはPTAや保護者にフィードバックされてい ない、またプログラムでは公開することになっていたが、平成29年度については公開さ れていない。



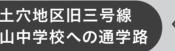
これらについて改善を要望

改善を検討したい。 ※危険箇所については質問の翌日28日に公開されました。





土穴地区旧三号線





再三危険性を指摘





- ・当該道路の工事の期間、内容

不安を抱く声も…

地元説明会などの開催について要望があった場合は、道路管理者である 県との橋渡しをしてほしいがどうか。

そういったご要望があれば橋渡しさせていただく。



市内通学路の危険個所の電柱を活用して「飛び出し注意」などの啓 発表示板の設置を検討できないか。スポンサーをつければ経費は かからない、是非検討してほしい。





市

検討したい。



宗像の経済の漏バケツをふさぐ。―

昨年、飲食店でオーナーと地産地消や域内消費の話で盛り上がりました。宗像市の野菜を市内の 生産者直売所で購入して食材として使用しているけど生産者と飲食店の顔の見える機会、マッチ ング機会があればお互いにWIN-WINになるのでは?という貴重なご意見をいただきました。そ の後、日々ランチを通じて関係者の声を伺ったり、市役所の担当部署に行って現状を把握したり、農業 委員、商工会の方々との懇談会でも情報を収集させていただきました。

宗像市も域内消費を推進していて、市内飲食店と生産者とのマッチング創出事業を行っては来たも のの食材を提供する側の生産者の負担だったり、出荷規模に課題があることがわかりました。 その一方で、生産者が独自ルートで大手チェーンと取引をしていること、独自ブランドを開発 して販路を探していることも明らかになり、創意工夫の余地があることも分かりました。商工事 業者からの人材不足の声も増えていました。

さらに商工会としても市内経済の調査分析について課題認識があることも分かりました。その結果 を踏まえて、生産者と飲食店とのマッチング機会の創出。飲食店(特にお弁当)福祉施設、生産者 とのマッチング創出機会を増やすことで、ヒト×モノ×カネ、三方よしに繋がると訴えました。

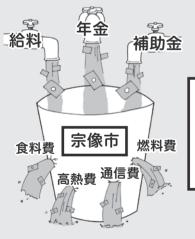
さらに、市民が毎日食べるお米、味噌汁などの消費を地元産品に変えていくことが、地味だ が域内経済の好循環に繋がることも常識だがあえて訴えました。

そしてそのために、まずは域内消費や域内循環に関する数値を抑える必要があり調査分析、 物差しを作る必要があります。

「長年訴えてきましたが、これこそが肝。」

たとえ、市税収入が増えたとしても経済の域外流出ばかりでバケツが ダダ漏れだったら本市の未来は明るいとは言えないからです。

創意工夫する市民、民間の後押しは一致団結してやっていきたいですね! みんなで市内の経済活動を促進させましょう!







外に出ていかない ように穴をふさぐ 地域にお金が しっかり貯息る





生産者と飲食店の マッチング機会の創出



♪ ローカル

どこでどんなものを 買うかで地域経済は変わる



毎日食べるお米、味噌汁 などを地元産品にしていく

? あの提案はどうなった?

ふるさと寄付金のその先の有効利用の重要性

■ 近、行きつけのうどん屋さんの前を通りかかったら頻 **耳又** 繁に閉まっているので不安になり先日訪ねてみたら、 ふるさと寄付の返礼品の発送に追われていました。

私が提案(特産品を返礼品に加えることとクレジット決済 化)した当時は「どうなるかわからない」と言われていた、ふる さと寄付の返礼品の商品開発、出店に果敢にチャレンジして



くださった事業者の方々のおかげで宗像市の税外収入は確実に増えています。

私はふるさと寄付金制度は6次化の推進、テストマーケティング、市職員の稼ぐ意識向上、 外貨獲得効果がメインだと考えています。ふるさと寄付で商品が話題になってデパ地下などへの 販路拡大やネット通販チャネルの確立につながれば、もしもこの制度が無くなったとしても、本業 を維持しつつ無店舗営業、24時間販売が継続できるので事業者にはメリットしかありません。

ただし、提案当時と違い、今後は制度変更がある可能性も否定できない状況ですので、今からス タートしようとする事業者さんにはリスクもあると思います。宗像市が市政運営に毎年10億円の 収入をこの制度を利用して見込むのであれば、その辺りのリスク対策も考えてあげないといけません。

それから、31年度予算の人件費40億円の4分の1をこの制度で賄ってもらっていると捉えれば、 私たち行政に関わる者は他人事ではなくて自分の給料の25%を賄ってもらっている認識を 持って総動員でPRすることを忘れてはなりません(あるパン工場ではクリスマスシーズンに 社員総出でケーキ販売のノルマがあるように)。



そして、この10億円という有難い果実を現在ある事業だけに使うのでは なく、万が一の時の備えとして蓄えることや、商品開発や販路拡大、地域 経済分析調査、収益確保のための可能性調査費に充てることを意識す る必要があります(自ら稼ぎ家族を養ってきた私としては、ごく当たり前の 考え方だと思うのですが・・・)。ちなみに、民間では自分の給料の5倍から10 倍の稼ぎがなければ会社に貢献したことにはなりません。

私たち行政に関わる者は自分たちの職域、担当部署だけではなく宗 像市の財政に関して広い視野を持って行動することが求められている と思います。

習はその後どうなった?

過去の一般質問で度々提言してい ましたが、赤間駅を中心とした本 市の中心拠点の安心安全に支障 をきたす恐れのある水路(沼川幹 線、赤間第8幹線、田久幹線)につ いて、昨年の議会でも梅雨前まで の早期対策を要望していました。

> 3月に入り、赤間第8雨水 幹線のしゅんせつ工事 が始まりました。



